




【基本施策の目的】

市民一人ひとり生涯にわたってさまざまな学習活動に取り組み、その成果をより良い地域社会づくりに活かすことで、地域力の向上につなげます。

【基本施策の今後の優先度】

大	生涯学習では、新図書館の建設や、各市民センターとの連携などを通じて、市民ニーズや社会的課題に対応した施策を力強く進めていくことや、地域協働を推進する人材育成に取り組む予定であることや、同一分野内における他の基本施策との比較の結果、「大」と判断した。
---	--

【指標の分析と今後の対応】

指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	今後の対応
生涯学習活動に取り組んでいる市民の割合	%	実績	15.7	9.9	8.1	32.6	割合が4倍ほど増加しているが、市民意識調査において、生涯学習活動の範囲がわかりにくかったため、具体例を掲載したことが大きな要因だと考えられる。 性別でみると男性より女性の方が活動に取り組む割合が5%ほど高く、年齢別では65歳以上の高齢者で割合が高く、仕事や子育てに忙しい30歳代の割合が最も低くなっている。	H30年度から市公民館の講座開催事業が文化財団へ移行される予定だが、引き続き各市民センターと連携をとりながら、市民ニーズや社会的課題に対応した講座や子育て世代でも参加しやすい内容や日程の講座を開催し、学習に取り組める環境を提供する。
		目指す方向性						
生涯学習活動による成果を地域社会に活かしている市民の割合	%	実績	40.2	49.3	56.3	36.4	値としては減少しているが、ペースとなる、指標「生涯学習活動に取り組んでいる市民の割合」で「はい」と回答した市民の割合が増加したことにより、実数としては2倍以上増加している。年齢別では65歳以上及び10歳代の割合が高く、仕事や子育てに忙しい30歳代の割合が最も低い。 引き続き、地域社会に活かせる場や情報の提供を行う。	こまなびサロンが文化財団に移行後も、各市民センターと連携をはかって相談体制を強化し、社会貢献の具体的方法や手段などについて周知を行っていく。また、魅力ある出前講座の開催や気軽に相談できる窓口の雰囲気作りにつとめ、子育て世代の地域参加へつなげていく。
		目指す方向性						
市民の図書館に対する満足度	%	実績	55.4	55.4	44.3	47.0	インターネットなど他メディアの躍進による読書離れ、図書館の老朽化や狭隘化等により現図書館は市民のニーズに応えきれない。今後は、貸出し中心の機能のみならず、様々なニーズに対応できるサービスや居心地の良い「場」を提供することにより、満足度の向上につながると考えます。	市民一人ひとりに、図書館を学習活動や地域活動の拠点として活用してもらうために、新図書館の建設や現図書館サービスの改善に引き続き努めていきます。
		目指す方向性						

展開方向	指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	事務事業等の見直し内容
1 学習の機会を提供します	市民講座が開かれていることを知っている市民の割合	%	実績	78.3	74.4	74.8	73.3	全体として大きな変動はないが、30歳代以下の認知度が低い。年2回の情報ガイド発行やHPによる周知のみでは限界があるため、様々な媒体を使って広報を行っていく必要がある。	H30年度から情報学習ガイド発行は、市公民館の市民講座開催事業とともに文化財団へ移行する予定である。情報ガイド自体の見直しと併せ、財団事業の際の折込チラシ配布など新たな周知方法を検討するとともに、フェイスブックを積極的に活用し、若い世代への周知を計っていく。
			目指す方向性	↗					
	市民講座受講者数	人	実績	1,947	1,836	2,062	1,911	講座の受講者数は、昨年度より減少した。受講者数は、講座内容により大きく変動するため、今後も変動は予想される。	平成28年度から市公民館、3市民センターで市民企画講座を開講しているが、講座内容が趣味・教養に偏る傾向があるため、市民ニーズや社会的課題に対応した講座を公民館職員企画により実施し、受講者拡大をはかる。
市民講座を受講して、社会貢献活動をした市民の割合	%	実績	26 (H26年度)		26	21	講座終了後のアンケート結果によるものだが、昨年より減少した。趣味・教養講座が多く、短期間の講座受講によって十分な技術や知識を得られないことから、社会貢献にはすぐに結びつきにくいと考えられる。	講座終了後の自主グループの発足の手助け、または既存サークルの紹介等により引続き学習に取り組める環境を提供するとともに、生涯学習講師やボランティア登録など、社会貢献の具体的方法や手段について周知を行っていく。	
		目指す方向性	↗						
2 学習活動を支援します	こまなびサロンを知っている市民の割合	%	実績	24.5	26.6	29.3	26.8	こまなびサロンの認知度は、ほぼ横ばいの状態である。市公民館4Fという一般的には分りづらい場所にあるのも認知度増につながらない要因の一つと考えられる。	30年度からこまなびサロンも文化財団へ移行する予定であるため、財団で情報誌などを用いてこまなびサロンの周知を図っていく。
			目指す方向性	↗					
	生涯学習に関する相談件数	件	実績	152	198	167	167	昨年度と同数である。こまなびサロンのみの相談件数であり、こまなびサロンの認知度を上げることが必要である。	こまなびサロンでの相談事業も文化財団へ移行となる予定である。市民センターとの連携に加え、1Fの文化財団事務室との連絡体制を整備し、相談体制の強化を図っていく。
社会活動の支援や指導に関わってみたいと思う市民の割合	%	実績	36.1	35.6	32.9	28.6	毎年、減少傾向である。関心があり実際に地域の活動に携わってみたいものの、指導・支援の苦勞を痛感する人も多い。また、社会的活動に興味がない人や目を向ける余裕がない人もいると考えられることから、今後も横ばい、もしくは減少傾向が予想される。	知識や技術があっても人前に立つことに不安を感じる方や、経験してみたが上手くできず悩んでいる方等に、生涯学習人材育成講座として、地域で活かしていくために必要なスキルやコミュニケーションの取り方などを身につける講座を開催していく。	

展開方向	指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見直し(予測)	事務事業等の見直し内容
3 図書館サービスを充実します	市民1人あたりの図書などの年間貸出冊数	冊	実績	7	6.6	6.7	6.5	インターネットの普及や活字離れ等により貸出冊数は減少傾向にある。各市民センター図書室での減少率が若干高い。	今後は本館のみならず各市民センター図書室の環境整備にも力を入れることにより、貸出冊数の向上を図るとともに、各市民センター図書室の除籍を積極的かつ定期的に行うことにより、書籍を選びやすい書架とする。
			目指す方向性	↗					
	1年以内に図書館を訪れたことがある市民の割合	%	実績	36.1	33.5	34.2	32.3	施設の老朽化、狭隘化が目立ち図書館の魅力が薄れている。	少しでも居心地のよい空間となるよう配架等の工夫をしたり、講座やイベントの充実を図るとともに、書架の配置(北里市民センター)を工夫、興味を引く展示コーナーの設置、一般向けの講座やイベントの充実に努める。
			目指す方向性	↗					
	おはなし会などの参加人数	人	実績	7,375	7,382	7,022	6,532	天候や他の行事との重複など不確定要素があるが、一定の集客率がある。	今後も読み聞かせボランティアと連携し、継続して事業を行っていくとともに、ボランティアが安定した活動ができるように、ボランティア保険への加入や消耗品の購入、ステップアップ講座の開催を行う。
			目指す方向性	↗					

経常事業	削減に関する具体的な考え方	展開方向1	<p>市公民館で実施する1. 市民講座開催事業及び2. ゆうゆう学級講座開催事業は、平成30年度からこまき市民文化財団へ移行する予定であるが、展開方向の目的を達成するため、文化財団へ講座開催委託事業(仮称)として事業費を計上する必要がある。</p> <p>「ゆうゆう学級講座開催事業」は、H27年度から受講期間を2年から1年に変更し、H28年度からは1学級のみとしたところである。1年で20回の開催のうち、社会見学や出前講座の利用により講師謝礼が不要の回もあることから、講師等謝礼の一部金額を削減する。</p>
		展開方向2	<p>・生涯学習相談事業のうち生涯学習情報ガイドこまなび発行、こまなびフェスティバル、生涯学習人材育成講座などはH30年度からこまき市民文化財団へ移行する予定である。 削減予定額は以下のとおり 共済費 1,074千円(こまなびサロン職員分) 賃金 6,389千円() 報償費 100千円(人材育成講座の講師謝礼) 需用費 3,626千円(生涯学習情報ガイドこまなび印刷費等) 役務費 85千円(こまなびフェスティバルのクリーニング代)</p> <p>ただし、いずれも文化財団へ委託等を行うことになるため、こまなびサロン職員の人件費をはじめ、情報誌発行、こまなびフェスティバル、人材育成講座にかかる費用はこれまでと同額程度が必要となる見込みであるが、講師謝礼など削減できるところは見直しをはかっている。</p> <p>・「社会教育関係団体助成事業」は、小中学校PTA連絡協議会補助金であり、予算の維持が必要。 ・「地域3あい事業」は、地域協議会と重複する部分も多く、今秋開催予定の生涯学習審議会にて意見聴取を行い、将来の3あい事業のあり方について方向性を定めていく予定だが、29年度も全区のうち半数の65区が実施している事業であり、早急な削減は各区の地域づくり行事に支障をきたす恐れがあるため、予算の維持が必要。 ・「生涯学習キャンパス運営事業」は、H29年度で終了予定のため、1,018千円削減する。 ・「中部公民館施設管理事業」は、適正な施設管理のために予算の維持が必要。</p>
		展開方向3	<p>「図書等購入事業」については、資料の購入と除籍を計画的に行い、充実した蔵書とするため、毎年安定した予算の確保が必要と考えるが、施設配本用図書の蔵書数が増大していることにより、購入を控え事業費の一部金額の削減を図る。 「視聴覚ライブラリー事業」については、一定の役割は終えつつあると考えるので、新規資料の購入を廃止することにより事業費の一部金額を削減する。 「読書啓発事業」については、生涯学習推進のため、図書館として継続して行っていく事業と考えるため、予算の維持が必要である。</p>

実施計画事業	資源投入の考え方	展開方向1	経常事業を引き続きしっかりと進めていく。
		展開方向2	経常事業を引き続きしっかりと進めていく。
		展開方向3	新図書館建設事業は、現図書館の建物の老朽化や狭隘化といった課題に対応する為に小牧駅前A街区に新たに図書館を建設する事業である。この事業は、ラピオの再構築、小牧駅周辺整備と併せて中心市街地における市の施策として特に重要な事業であると考えており、また市民や議会からも早期に新図書館の供用開始を望む声があることから資源投入量を増加することが必要と考えている。